

神の像

「神は御自分の像に、神の像として人を創造された。男と女とを創造された。」

創世記 1:27

哲学者たちは、今日存在する人間は、歴史上かつてないほどに輝かしく、進歩していると説く。彼らの主張によれば、進化が私たちをこの地点へと導いたという。「各世代は前の世代よりもはるかに賢い」という主張は、科学者たちが計算によって、人類が数百万年にわたり地球上に存在し、世代ごとに進化してきたことを突き止めたことから導き出されたものです。世代ごとに進歩してきたことから、彼らは人類が今や非常に高いレベルに達したと結論づけています。この哲学は正しいのでしょうか。

宇宙の偉大なる創造主が、何が真理であり、何が単なる哲学であるかを見極めるための情報源を私たちに与えてくださったことを、私たちはどれほど喜んでいることか。主は私たちに「主の宮へ行こう」と招いておられ、その学びの宮に入ることから、人間に関する神ご自身の証しを見出すことができるのです。詩篇122:1

この情報源である聖書から、人間は「地から」来ており、神が「地の塵」から彼を形造られたことを学びます。（コリント人への手紙第一 15:47；創世記 2:7）。神が「いのちの息」を吹き込み、ある

いは注ぎ込むことによって、「人は生ける魂となった」。この人間の創造に関する簡潔な記述（ ）には、ある生命形態が別の形態から進化したとか、より単純な種がより複雑な存在になったといった示唆は、微塵も含まれていない。創世記第1章に記されているように、神はそれぞれの種を、互いに独立した異なる生命の形態として創造された。生命を支えるために地を整える各段階を経て、また植物、魚、鳥、地上の生き物たちがそれぞれ創造されるたびに、神は「それは良かった」と宣言された。創世記1:10,21,25,31

創世記1章26節、27節には、「神は言われた、『われわれの像に、われわれに似せて、人を造ろう』」と記されています。神の言葉には、複数形を用いた考えが示されていることに気づきます。「彼らに、海の魚、空の鳥、家畜、……そして地を這うすべての這うものを支配させよう」。この宣言から明らかなように、神がご自身の像に似せて人間を創造されたとき、「神は彼らを男と女に創造された」とされたのは、アダムとエバの両方が、様々な点で神ご自身に非常に似通っていることを意味していたのです。

ヘブライ語における「像」と「姿」という言葉は、類似性や模範を意味します。人間は神の模範となるように造られました。では、完全な人間であったアダムは、どのようにして神の模範となったのでしょうか。それは、決して肉体的な面においてではありませんでした。私たちの創造主は、はるかに優れた存在——霊的存在——であり、人間はただの大地の肉なる被造物に過ぎません。しか

し、私たちの創造主は、ある点において、人間を御自身の像の反映として造られました。この類似性、すなわち像の一部は、理性を働かせ、記憶し、抽象的な概念も直截な概念も認識し、道徳的判断を下し、知的かつ審美的な資質を備えるという人間の能力にありました。

完全な人間であるアダムには、善悪を区別することを可能にする、神に似た良心の資質が与えられました。また、彼は自由意志を与えられ、選択の力を完全に発揮することができました。もしそうでなければ、人類は単なる機械に過ぎず、私たちの行動は他者によって支配されることになっていたでしょう。しかし、現実はそうではない。もしそうであったなら、能力や才能を発揮することも、個性を育む機会も存在しなかっただろう。もちろん、この選択の自由は、その用い方次第で、善にも悪にもなり得る。

アダムは罪を選んだ

アダム、すなわち最初に創造された輝かしい人間は、肉体的にも精神的にもあらゆる恵みに満ちていました。彼の周囲のすべては、彼の幸福を維持するために整えられていました。創造主はアダムに対し、もし神の正しい律法に従えば生き、もし神の公正な命令に背けば死ぬであろうと、極めて明確に告げました（創世記2:15-17）。創造主の指示は極めて単純なものでした。エデンの楽園で永遠に生きるにふさわしいかどうかの責任は、アダム自身の選択の自由にかかっていた。悲しいことに、彼は不従順によって罪を選ぶように導かれてしまいました。その完全さからの墮落の結果

、アダムとエバが生み出した全人類は、罪の中に生まれ、相続によって死の罰の下に置かれることになりました。（詩篇51:5、ローマ人への手紙5:12）

罪と死の支配は続いており、神がこれを許された目的が果たされ、それが終わるべき時が来るまで、続くでしょう。神は御自身の愛により、すべての人のために「死を味わう」こととなる贖い主、救い主、すなわち御自身の愛する御子イエス・キリストを備えてくださいました。（ヘブル人への手紙2:9）。人間の義にかなった死の宣告からの救いのためのこの備えは、無償の恵みの「賜物」でした。ローマ人への手紙5:15-18

私たちの最初の両親の罪への墮落の結果として、そしてそれ以来の長い世紀を経て、初めから人間を創造主の像として特徴づけていたそれらの資質は、全人類のうち、顕著な程度で見出されるのは比較のごく一部に限られている。確かに、神の威厳ある御性質に由来するそのような恵みを育もうと努めてきた高潔な人々もいれば、単に神に似たような外見を装っているだけの人々もいる。この外見は、表向きは好ましい振る舞いをもたらすかもしれないが、神が私たちの最初の両親を創造された際の、真の品性の純粹さは、彼らの心の中にほとんど存在しないかもしれない。

神は真の徳を欠く者とは共に働くことができないため、ご自身の計画を実現するために、その存在の核心から慈悲と愛の資質を示してきた人類の中から、熱心に選ばれた人々を探し求めてこられました。神は時代を超えてこれらの人々を恵み、ご

自身の計画の成就を成し遂げさせてこられました。その生涯の大部分において、こうした優れた資質の一部を示した、恵まれた人物の一人について考えてみましょう。それはダビデの息子、ソロモンです。

ソロモンから学ぶ教訓

晩年のソロモンは、自らの選択の自由ゆえに多くの妻たちの要求に翻弄され、その結果、神を大いに不快にさせてしまいました。しかし、若き日の彼は神から大いに恵まれていました。ソロモンは、父ダビデから思慮深さ、統治能力、そして主の恵みへの感謝といった資質を受け継いでいたようです。これらは、ダビデが以前、聖なる預言者ナタンの足元で学んだものでした。

ダビデが年老いて統治する力が衰えた時、息子のソロモンは、わずか二十歳の若さで、イスラエルを治めるという重い責任を引き受けた。私たちは、ダビデが愛する息子のために捧げた祈りの深さを十分に理解できる。息子を持つ父親であれば、ソロモンに対するダビデの心配りを容易に共感できるだろう。私たちもまた、息子たちに対して同じ思いを抱いている。すなわち、彼らが神の御目にかなう恵みを得、神と共に正しく歩むことができるようにと願っているのだ。

歴代誌第一28章9節、10節には、ダビデが息子に語った言葉が記されている。「わが子ソロモンよ、あなたの父の神を認め、心を尽くし、魂を尽くして、喜んで主に仕えなさい。主はすべての心を探り、すべての思いとすべての考えを知っておられ

るからである。もしあなたが主を求めれば、主はあなたに見出される。しかし、もしあなたが主を捨てれば、主はあなたを永遠に拒まれる。今、よく考えなさい。主はあなたを選んで、聖所となる家を建てさせようとしておられる。強くあれ。そして、その業を成し遂げなさい。」

主は、ダビデの生涯の夢であった聖所の建設のために、ソロモンを選ばれた。神の忠実な預言者ナタンの助けと助言を受け、また神の御心に適う者として、ソロモンは父の神殿建設計画の精神をすぐに理解した。彼は、イスラエルの繁栄が、神の律法への従順と、エホバへの礼拝にかかっていることを知っていた。

知恵を求めるソロモン

神への深い愛に満ちたソロモンは、ギベオンで千頭の全焼のいけにえをささげた。彼は神を喜ばせたいと強く願い、その創造主へのこの大いなる捧げ物を用意したのである。ギベオンにいる間、この若き新王は夢を見、その中に主が現れた。（列王記上3:5）。神はソロモンに、「私に与えてほしいものを何でも求めなさい」と言われ、ソロモンの答えは美しいものでした。それは、愛に満ちた心からしか生まれ得ないものでした。ソロモンは言いました。「私はまだ幼子に過ぎません。自分の務めをどのように果たせばよいのか分かりません。……どうか、あなたのしもべに、あなたの民を裁くための分別ある心をお与えください。そうすれば、私は善悪を見分けることができます。このあなたの大いなる民を、いったい誰が裁くことができるのでしょうか。」列王記上3章7-9節

神は、ソロモンの心の真摯な表れを喜ばれました。神はその願いに素晴らしい形で応え、ソロモンに「知恵と分別のある心」を与えられました。不完全な人間の中で、ソロモンほど賢明に裁くことのできる者は、その後二度と現れませんでした（列王記上3:10,12）。その利己的でない願いゆえに、神はさらにこう約束されました。「また、あなたが求めなかったもの、すなわち富と栄誉も与えた。あなたの生涯において、あなたのような王は他に現れないであろう。もしあなたが、あなたの父ダビデが歩んだように、わたしの道に歩み、わたしの定めと戒めを守るなら、わたしはあなたの生涯を長くする。」（列王記上 3:13,14）

ソロモンは夢から覚めると、自分の願いが神に喜ばれたことを実感し、喜びに満たされた。彼はエルサレムに行き、契約の箱の前で平安のいけにえと全焼のいけにえをささげた。（列王記上3:15）。その後まもなく、彼は主の指示に従い、イスラエルの神殿を建設するという偉大な事業に着手した。

神殿の建設

神殿の石や木材はすべて、あらかじめ準備され、形を整えられ、それぞれの設置場所が印され、準備が整って初めて建設現場に運ばれたことを思い起こそう。すべての部品は完璧に合い、ハンマーの音も、斧の音も、鉄の道具の音も一切なく、一つひとつが次々と組み合わされていった。（列王記上6章7節）。この偉大な神殿の各部分は異なる場所で準備されていましたが、建設予定地へ運ばれた際、何も変更する必要はありませんでした。

これはクリスチャンにとって、なんと素晴らしい教訓でしょうか！私たちは、気ままに時を過ごしていても構わない、そして人生の終わりに差し掛かった時、突然、奇跡的に、王の神殿における自分の場所にふさわしい者になれるなどとは、一瞬たりとも考えてはなりません。今こそが準備の時なのです。私たちは今、主が御自身の霊的な神殿において私たちのために用意しておられる特別な場所のために、形作られ、彫り出され、磨き上げられ、数え入れられなければなりません。

私たちは、ソロモンの神殿が、より偉大な構造物を象徴していたことを悟ります。「あなたがたは、生ける神の神殿です」とパウロは言いました（コリントの信徒への手紙二 6:16）。神の霊的な神殿の準備のために形作られ、労苦する時は、今なのです。（コリント人への手紙第一3:9；エペソ人への手紙2:10；ピリピ人への手紙1:6；2:12,13）。すべての部品、すなわち聖徒たちが、この「曲がりくねり、邪悪な」世の中で、クリスチャンとしての生涯を通じて整えられ、準備が整ったとき、彼らは象徴的な天の神殿におけるそれぞれの適切な場所に組み込まれるのです。ピリピ人への手紙2:15

ソロモンの神殿の奉献には、多くの喜びに満ちた祝賀が伴いました。（列王記上8:65,66）。神の霊的な神殿であるキリストが完成し、組み立てられ、神の栄光がその中に入られる時、天と地には大きな喜びが満ちるでしょう。その神殿の完成によって全地が恩恵を受け、祝福されるのです。それは、ソロモンの治世の下で、肉的なイスラエルが

繁栄の絶頂に達したのと同様です。（エペソ人への手紙 2:19-22；ヨハネの黙示録 3:12；21:22-26）

私たちの時代

ここで、人生のこの時点における賢王ソロモンについての一時的な考察を終え、現代の私たち自身について再び考えてみましょう。天の父の招きは、神ご自身に似た人間の本来の性質を多少なりとも備えている人々に対して、今もなお向けられていることがわかります。神への愛と従順という本来の資質を持つ人々は、ソロモンや過去の時代の他の高潔な人物たちよりも、さらに偉大な招きと奉仕に応えているのです。今もなお、神に献身し、神の独り子に倣って歩むために生涯を神に献げる人々がいるという事実そのものが、この召し出しの働き、そしてそれに関連する磨き、彫り込み、形作りの作業が、今もなお続いていることの証拠となっています。私たちは、これこそが、天の父がはるか昔に提示された救いの計画を成し遂げるための方法であることを悟ります。さらに、神を愛する者たち、すなわち神の御計画に従って召された者たちにとって、すべてのことが共に働いて益となることを知っています。「神はあらかじめ知っておられた者たちを、御子の姿に似せられるようにとあらかじめ定めておられました。それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となるためです。」ローマ人への手紙8章28、29節

この聖句は、あらかじめ定められた一群——すなわち教会——が、父なる神の写しであり像である御子の写し、像でなければならないことを教えています。クリスチャンとして、私たちこの世の者

は、どれほど懸命に、長く努力しようとも、イエスのように完全になることはできません。また、私たち自身の選択によって、この榮譽を自ら手にすることもできません。もし私たちがイエスの足跡をたどる者となるよう招かれたのであれば、この榮譽は神によって私たちに与えられたものです。テサロニケ人への手紙第一 2:12；ヘブル人への手紙 5:4

このことは、この問題に光を当ててくれます。なぜなら、私たちの仲間のクリスチャンたちを見て、彼らが私たちと同じ招きを受けたことを悟るとき、私たちはそれに応じて彼らの交わりを大切にようになるからです。私たちは感謝の心をもって父なる神の招きを受け入れました。イエスの犠牲という神の恵み深い備えによって、私たちはこの関係に入ることが可能になったのです。そうすることで、また、私たちの不完全さを覆うために救い主の義の衣をまとい、イエスの身代金の犠牲の功績によって神に受け入れられる者となることで、私たちは喜んですべてを奉獻し、たとえ自分自身に大きな犠牲が伴うとしても、天の父に喜ばれる行いを始めようとするのです。イザヤ書 61:10；ローマ人への手紙 12:1；エペソ人への手紙 1:5-7

この重要な一步を踏み出す前に、私たちは祈りつつ、イエスの足跡に従い、イエスの模範となることの意味を熟考していなければなりません。私たちの思いは、上のことに向けられていなければなりません。（コロサイ3:2）。新しい意志、新しい心は、御霊の実と恵みを育まなければなりません

。イエスの模範となるためには、常にこれらの品性を育み、示すよう努めなければなりません。（ガラテヤ5:22,23；ペテロ第二1:5-7）。神に喜ばれ、主の御霊と調和するあらゆる心情を追い求めなければなりません。もっとも、それは天の父の形作る御手のもとで、生涯をかけて育まれていくものですが。

主、真理、そして兄弟姉妹への愛を示すだけでなく、世界に対する愛に満ちた、思いやりのある配慮も持たなければなりません。主イエスに似た者となるためには、嘆き悲しむ被造物、さらには私たちに侮辱し、虐待しようとする敵たちに対しても、深い配慮を持たなければなりません。マタイ22:37-39；ヨハネ13:34,35；ルカ6:27,28

心の従順

箴言4:23にはこう記されています。「あなたの心を守りなさい。命の泉はそこから湧き出るからです。」イエスの足跡をたどる者たちにとって、神の霊的な神殿の一部となる権利は、今、私たちがどのように心を育むかによって決まります。私たちはこの「土の器に納められた宝」を持っており、世の重荷や肉の弱さが、私たちを目標から引き離そうとします。（コリント人への手紙第二 4:7）。しかし、父アダムやソロモン王、さらには私たちの主イエスと同様に、私たちにも、誰に心の従順を捧げるかを決める自由意志があります。私たちは、主や真理、あるいは兄弟姉妹に仕えるよう強制されたわけではありません。それは私たちの自由な選択なのです。イエスに目を留め続けることで、私たちはイエスのようになることができます

。イエスが歩まれた道を歩みたいという私たちの願いは、崇高なものです。私たちの目標は、父がこれほど恵み深く招いてくださった神殿のその場所を満たすことであり、それは、愛する御子の姿に似せられることによってのみ達成できるのです。ローマ人への手紙**8:29**；コリント人への手紙第二**3:18**

もし私たちが忠実であれば、霊の存在として復活し、「よくやった、良い忠実な僕よ。わずかなことに忠実であったから、多くのことを任せる。主の喜びにあずかれ」（マタイ**25:21**）という言葉聞くという、驚くべき特権に恵まれたとき、その経験はどのようなものになるのか、と私たちは考えたことがあるかもしれません。聖書はこの点について、確かな情報を与えてくれています。

ベールの向こう側

使徒パウロはこう語っています。「もし私たちが、[イエスの]死の似姿に結ばれたのなら、復活の似姿にも結ばれるのです。」（ローマ **6:5**）。復活後の主の「似姿」とは何でしょうか。ヘブル人への手紙**1章3節**は、イエスが神の「完全な現れ」、すなわち神の完全な写しであると教えています！ イエスの犠牲と奉仕の足跡を忠実に歩み、「善を行うことに忍耐強く励み、栄光と誉れと不死を追い求める」人々は、彼らの主であり頭である方ようになるでしょう。すなわち、神の神聖な家族の一員となるのです。ローマ人への手紙**2章7節**

「神の完全な像」という表現に関しては、さらに考えなければならない点があります。確かに、私たちの主は、人間となる前の天使としての状態、

すなわち「ロゴス」として、父なる神に似た姿をとっておられました。人間としてこの地上にいられたときでさえ、主は神の似姿にありました。なぜなら、主の御性質は常に御父の御性質と完全に調和していたからです。しかし、使徒パウロは、イエスが「十字架の死に至るまで従順であり」、今や「天の高き御座の右に座しておられる」と語っています。このゆえに、神はイエスを高く上げ、すべての名にまさる名を授けられました。イエスは今や、目に見えない神の「完全な像」として、神の性質を分かち合い、かつて以上に完全な姿をとっておられます。ヘブル人への手紙1章3節；ピリピ人への手紙2章8、9節；コロサイ人への手紙1章15節

また、次のように記されています。「見よ、父が私たちにどのような愛を注いでくださったか。すなわち、私たちが神の子と呼ばれるようにしてくださいましたのです。それゆえ、世は私たちを知りません。世が父を知らなかったからです。「愛する者たちよ、今、私たちは神の子です。私たちが将来どのような者になるかは、まだ明らかになっていません。しかし、彼が現れる時[ギリシャ語：明らかにされる時]、私たちは彼に似た者となることを知っています。なぜなら、私たちが彼のありのままの姿で見るからです。そして、この希望を彼に置く者は皆、彼が清いように、自分自身を清めます。」ヨハネの手紙第一 3:1-3

このように、私たちの天の父は今も、そして永遠にすべてにまさっておられるが、私たちの主イエスは今や、神の完全な姿と似姿となっておられる

ことがわかります。（ヨハネ10:29、14:28、1コリント15:24-28）。イエスは、その忠実な奉仕ゆえにこの報いを受けられました。いかなる代償を払おうとも、御父の御心を行うことへの従順において、イエスは決して揺らぐことがなかったのです。神はイエスを高く上げられました。そして、イエスの花嫁であり、その体である教会の「召され、選ばれ、忠実な」会員たちに対しても、同じようにしてくださることを喜ばれています。（黙示録17:14；19:7,8；21:2；コリント人への手紙第一12:12,27）。彼らは主イエスの姿に似た姿で復活するのです。これは、私たちが死に至るまで従順で忠実であれば、受け継ぐことができ、また受け継ぐことになる、素晴らしい約束です！（黙示録2:10）。パウロは次のように述べています。「あなたがたは、古い人をその行いととも脱ぎ捨て、創造主の御姿に倣って、知識によって新しくされた新しい人を着たのです。」 「私たちが地上の者（アダム）の姿を帯びていたように、天の者（神の似姿）の姿も帯びるようになるのです。」コロサイ人への手紙3章9、10節；コリント人への第一の手紙15章49節